
ふんだりけったりのゲーム大会

スティーブチェイス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ふんだりけつたりのゲーム大会

【Nコード】

N5665B

【作者名】

ステイプチェイス

【あらすじ】

哀が企画したゲーム大会に無理やり参加するハメになったコナン。そこで、少年探偵団などを呼ぶことにしたのだが、そこで思わぬことが待ち構えていた…果たしてコナンにとってはプラスかマイナスか…

とある春休みでのこと。哀の企画でゲーム大会が開かれることになった。そこで哀はコナンに、たくさんの人を集めて欲しいと言った。

「一体どうしたんだよあいつよ」何を目的に人を集めたいんだ」
軽くコナンは切れかけていた。そもそも哀が人を呼ぶこと自体が珍しいと考えており、その理解に苦しんでいた。

結局コナンは、メンバーとして少年探偵団、蘭、小五郎、園子、平次、和葉、そして休暇を楽しんでいた高木刑事を呼んだ。会場は工藤邸だ。

コナン：「で、灰原。一体何がしたいんだ。」

哀：「あら…あなたこそ楽しみにしてたんじゃないの？さ、始めるわよ」

と話をしていたらそこへ、もう一人の来客が…

「おい、灰原哀はどこじゃい！！！」

かなり怒鳴った様子で工藤邸に乱入した。

「あなたは、誰？」と灰原が問うと、その男は

「大体、この手紙送ってきたのはあんただろうが！」と激昂していた。

「あら、送ったかしら？覚えてないわねえ」

「送ったつーの！」

そのようなやり取りが続いた後に、

「哀ちゃんを送ったんだったら、いいじゃない。」と歩美が哀に説得したのでその男も参加することになった。その男の名前は、双葉隼人。宮城県にある東北修栄高校の2年生で野球部に所属している。この男も新一のことを知っており、消息が分からない新一を探そうとしていた矢先のこの手紙が来たという。

それはさておき、哀はいきなり言葉を発した。

「さて、今日は工藤君の家においてお宝大会を開きます。どこにあるのかを探してください。商品は、開けてからのお楽しみ。」

元太：「なんだよ、灰原のヤツよ」

平次：「なんや、おもしろいやないか。」

園子：「お宝は私のものよ」

隼人：「結局はこれか、やったろうじゃん！」

メンバーはそれぞれの思いを胸に、宝探しゲームが始まった。

哀：「あら、工藤君は探さないの？」

コナン：「興味がねーよ。俺はお前のそばにいるさ。」

哀：「そうなの。誰がお宝を獲得するんでしょうね。」

と哀は微笑を浮かべた。

1時間後

高木：「普通の仕事よりも疲れたよ。どこなんだよお宝」

光彦：「うーん、僕の考えどおりにいけばあるはずなんですが…」

隼人：「誰が取ったんだ…」

すると、奥のほうから、声が聞こえた

「あつたでえ〜。お宝！」

見つけたのは和葉だった。

平次：「おう、すぐ見てみ。」

隼人：「でも、なんか怪しいぞ…」

小五郎：「どうせ、しょうもないもんだろ？」

和葉はお宝の封を開けた。すると、入っていたのは賞金1万円とカラオケが出来るマイクだった。

歩美：「わあ〜すごい！」

隼人：「ということとは…」

コナン：「おいおい、まさか…」

男性陣：「カラオケ大会!？」

なんと哀は工藤邸において、盛大にカラオケ大会を開こうとしていたのだ。それについて、まずい表情をしたのは音痴のコナンをはじめとした男性陣だった。さらに、隼人があることに気がついた。

「ちよつとごめんよ。」と和葉からマイクを借りるとそれを丹念に調べた。すると、

「これ…俺たちに歌えるか…！」とまた激高した。それもそのはず、なんとこのマイクはカラオケが出来るとはいえ、過去のコナンの主題歌になっていたものを中心とした某グループの女性アーティストの曲しか入っていなかったのだ。

光彦：「もう帰りましょう」

小五郎：「つたく、子供だましか…」

コナン：「マジで勘弁してくれよ、灰原のやつ」

と男性陣が全員帰ろうとしたところ、背後からなにやらめらめらと燃え上がるものを感じていた。ふと後ろを振り返ると、蘭と和葉が何かしている…なんと、蘭と和葉は男性陣を襲おうとしていた。

蘭：「コ・ナ・ン・君。帰らないよね。」

和葉：「勝手に帰んのは許さへんで！」

2人は相当歌う気満々だ。すると隼人が口を開いた。

「満点取ったら、俺たちもやろう。もし取れなかったら、俺たちは帰る。それでいいな！」

そういうと、2人は承諾した。さらに、「歩美も歌いたい！」と歩美も歌うことになった。

すると蘭が「3人の中から一人でも満点出したらにしない？」とお願いした。まあ、まず無理だろうと考えた男性陣はOKを出した。さて、この後の行動をかけたカラオケが始まった。企画者の哀と蘭と来た園子は3人に、宝探しで疲れた高木を含めた男性陣は全員帰る準備をしたうえで、歌を聴くことにした。

まずトップバッターとして歩美が「恋はスリル、ショック、サスペンス」を歌ったが点数は81点だった。まず一人失敗。

続いて和葉が「Delicious Way」を歌った。この最

中、女性陣はもちろん、高木と平次もノリノリになっていた。終盤になぜか隼人も踊っていた。しかし点数は93点。実に惜しい！

最後に蘭が「とっておきの曲」と言って「Secret Of My Heart」を歌った。これがまたうまいときた。なんと小五郎以外の男性陣が聞き入ってた。点数は…100点満点だ！大喜びの女性陣。これで男性陣もカラオケ大会に参加することとなった。その後は関係なく、たくさん歌い踊った。だが、近所のおばさんがやってきて

「やかましい！！！！！！」と怒鳴り込んできた。これがきつかけで怒られたのは蘭・和葉・歩美、そして企画者である哀の4人だった。説教は延々1時間続いた。

結局、ふんだりけつたりของเกม大会だった。ちなみにまったく参加しなかったのはしらけていた小五郎とコナンだけだった。

（後書き）

とまあ、一体哀は何を考えてこのゲーム大会を開いたのか。それは誰も知らない…

ちなみに賞金1万円は哀のもので（一体どこで手に入れた？）、獲得した和葉はカラオケ騒動の謝罪として少年探偵団にお菓子をおごってあげ、残りを貯金とするらしい…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5665b/>

ふんだりけったりのゲーム大会

2010年10月16日02時34分発行